

令和7年度 運営推進会議

令和7年12月12日開催

施設名：デイサービス 連珠 出雲四絡

施設種類：地域密着型通所介護

参加者：利用者代表 1名

利用者家族 1名

地域住民代表 1名

出雲高齢者あんしん支援センター 1名

議題・内容

- 1, 事業所の方針
- 2, サービス利用状況・実績報告
- 3, 運営方針
- 4, 年間行事
- 5, ヒヤリハット報告
- 6, 今後の取り組み

1、事業所の方針

一人暮らしの高齢者が増え続けるなか、「人と人との関わり合う機会」や「自立すること」などが必要とされています。可能な限り住み慣れた土地で自分らしい生き方を少しでも長く続けていただくことが出来るよう、当施設は健康維持・回復の観点からサポートさせて頂きたいと考えております。・連珠・という施設名には“数珠の玉が連なるようにこの施設を通じてたくさんの方々が繋がっていって欲しい”という願いが込められています。人とのコミュニケーションの場を増加させることにより会話の中から笑顔が生まれ、その結果精神面からの健康維持のサポートも行っていけたらと考えております。

また連珠は同じ敷地内にはりきゅう接骨院姿勢堂があり、弊社が運営している接骨院と隣接していることから連携し易い状況にあります。連珠にも国家資格を持った理学療法士を配置しておりますが、接骨院にはその他にも国家資格を持った柔道整復師や鍼灸師もいることからご利用者様の様々な症状に合わせてお身体のケアやアドバイスを行うことが可能となっております。運動訓練にマントトレーニングや電気トレーニングも使用しておりますが、機能訓練士によるボディケアをしっかりと行ってまいります。

私たちの使命は健康寿命を延ばしていくことにあります。要支援・要介護に繋がる1番の原因是、筋肉・骨格系の運動器の疾患・障がいです。その予防やケアをしっかりと行い健康寿命を少しでも延ばしていくことに貢献したいと考えています。

2. サービス利用状況・実績報告 (R7年11月1日現在)

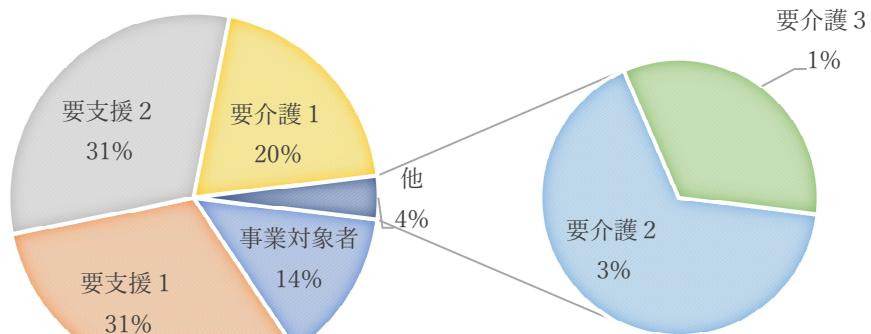
1. 利用登録人数：82名（男性17名 女性65名）

2. 介護度別人数

事業対象者	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
11名	25名	25名	18名	2名	1名	0名	0名	82名

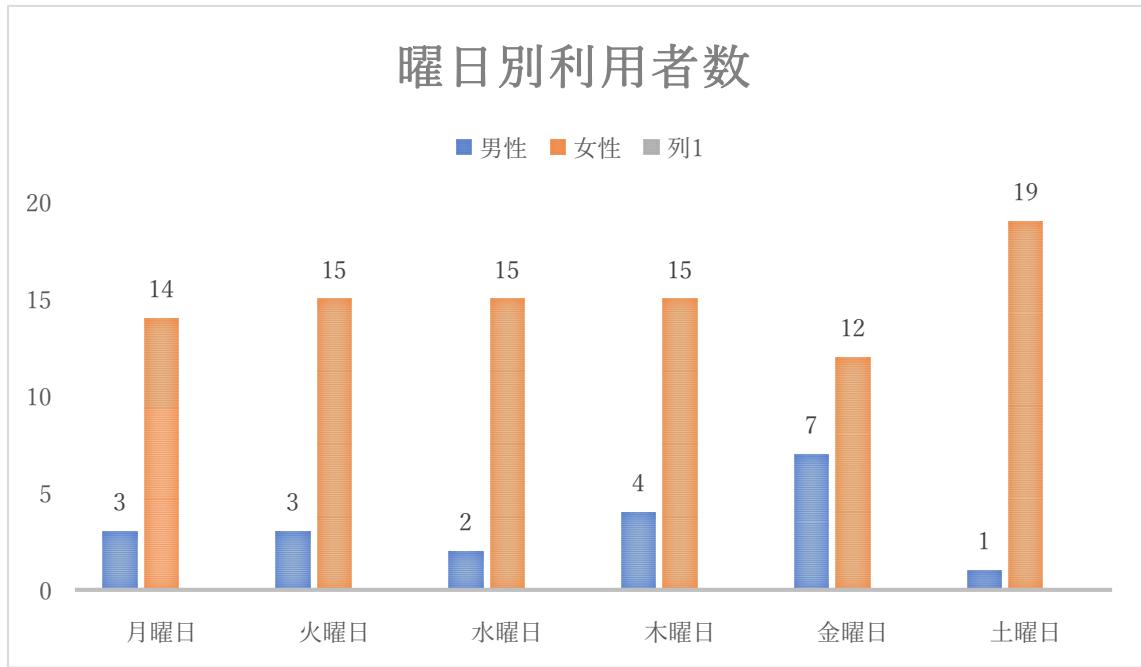
連珠ご利用の介護度別人数

■ 事業対象者 ■ 要支援1 ■ 要支援2 ■ 要介護1 ■ 要介護2 ■ 要介護3



3. 曜日別利用者数

	月	火	水	木	金	土
午前	9名	9名	10名	10名	10名	10名
午後	8名	9名	7名	9名	9名	10名



4. 地地区別利用者状況

小山町	7名	今市町	8名	姫原町	2名	大津町	5名
白枝町	4名	浜町町	1名	江田町	1名	塩治町	7名
里方町	2名	荒茅町	3名	古志町	2名	渡橋町	8名
稗原町	2名	外園町	1名	大社町	5名		
大塚町	3名	松寄下町	3名	矢野町	1名		
高松町	2名	荻杼町	2名	武志町	1名		
高岡町	2名	日下町	2名	東林木町	3名		
中野町	3名	稻岡町	1名	矢尾町	1名		

3. 運営方針

利用の方の意思及び人格を尊重し、出来るだけ長く住み慣れた環境で自立して生活が営むことができるよう、機能訓練を行い身体機能、心身機能の維持・向上をめざします。同時にその家族の方の身体的、精神的軽減にも繋がるようサポートし、関係市町村、地域の保健医療サービスの綿密な連携を図りながら、利用の方の心身の状況や置かれている環境にも配慮して適切なサービスが行えるよう努めて参ります。

4. 年間行事

別紙参照

5. ヒヤリハット・苦情・事故報告

ヒヤリハット 2 件

日時：令和 7 年 8 月 30 日

発生場所：連珠内

発生状況：EMS の為、リクライニングチェアに座られ「少し待っていてくださいね」とご本人様に伝え、情報を見るためその場を離れた際、前のイスの上にあったクッションを取ろうと手を伸ばした際にバランスを崩し、イスが前に傾きずり落ちられる。

対応：　　すぐに他職員と共に身体を支え再度イスへ座られる。

状態確認行うも疼痛、他症状の訴えなし。経過観察をする。

日時：令和 7 年 10 月 14 日

発生場所：連珠内

発生状況：5 m 歩行テストにおける努力性歩行速度の測定時に発生

測定場所が面談室であった為、側方介助が物理的に難しく、左後方からの、見守り介助での実地となった。当事者が歩行開始 2 m 地点で右足尖のつまずきにより、上半身が前方に大きく動搖した。

対応：　　評価者は自制困難と判断し、支えようと右側後方から手を伸ばすも前方動搖を抑えることが出来なかった。

当事者は前方推進力により倒れそうになるものの、左前方にあった支柱に掴まることで転倒に至ることはなかった。

その後、当事者に対して身体チェックを行うも、打撲痕、炎症兆候等は見られなかった。

苦情報告 1件

日時：令和7年7月19日

発生場所：ご利用者様宅付近道路

発生状況：お迎えの際、ご自宅前道路（一車線道路）にて車両（ワンボックス）が停車しており、その前方で送迎車を停車。その際にその車両の運転者の方と指差し確認を行い、その車両が後退（バック）にて路地へと移動し、ご利用者様宅へと迎う。その後送迎車を発進させると、先ほど停車していた車両のご家族とみられる方が送迎車を呼び止められ、事業所名を聞かれ、お答えする。

その後、連珠へ苦情の電話がありスタッフが対応する。相手方は興奮気味であり、気持ちが落ち着くまで話を傾聴し、徐々に落ち着いてきたご様子だったので、一連の内容について謝罪する。

その後、送迎より帰設した管理者より状況確認の為、再度ご連絡する。

相手方の主張として「自宅前に駐車し、荷物を、子どもを降ろしていた。車を駐車場まで移動しようと思ったが、ダメだ。行け行け。と言われた。表情も怒っている様子だった。車がこっちに戻って来る時に事業所の名前を聞いた。連珠の看板を背負って運転しているのに、運転者の態度を見て連珠へ連絡した。運転者のモラルの問題だ。」と少し興奮気味で話される。

運転者、相手方との意見の相違があるが相手方に不快感を与えたことは事実な為、謝罪を行う。しばらく傾聴すると落ち着かれたご様子で、「連珠は悪くない。運転者のモラルだけ。連珠の皆さんは頑張っておられる。応援している。最初に電話を受けた方も対応が良かった。こうして折り返し電話をもらって連珠がきちんとされていることがわかった。」と話される。終盤は穏やかな口調であった。

送迎時の同乗しておられた方への謝罪も行う。

今後の対策：適切な状況判断（状況把握力・予測力）

運転に対する運転マナー・運転姿勢・運転に対する心構え・運転スタイル
思いやり運転の徹底

6. 利用者様・家族様等からのご意見・ご感想

運営推進会議録

ご利用者様・家族様等の意見・ご感想

様より

「努力性歩行とは何ですか」

↑ 機能訓練士が説明を行う

避難訓練について

災害に心配なご利用者様はおられますか

より

先に情報がある場合は、安全を第一に考えご利用者様に連絡を行い、ご利用を中止している

また情報がなくとも明らかにおかしい場合は利用中でも中止するようにしている。

また緊急時などに A E Dが必要時は当施設にはないのでコミュニティセンターに借られる
ように連絡している。

あんしん様

苦情報告について

苦情はないことが一番良いが起きましたことは仕方ないので

その後の対応や再発防止をすることが大切であり、良く対応されていたと思う

車でのトラブルは多く、自分も改めて気をつけようと思った。

研修を良くやっておられるが業務時間内に行っているのか

より

送迎後の時間を利用する場合やもし時間がない時は資料を読んでもらうようにしている

様

引き続きよろしくお願いします。

様

連珠を利用する前と比べて身体は良くなっている。非常にいい状態でありがたく利用させて頂いています。

他のご利用者様のお話だと、運動後の施術等での身体をほぐしてもらうことを喜んであれそこが特徴なのかなと思っている。